

施策名 (小項目)	高校教育における柔軟な学びの場の提供	コード	作成者	役職	教育振興課長	学校教育課長
		01-01-05		氏名	大岩 伸喜	朝倉 健
			電話	64-1802	64-1840	
			このシート作成に要した時間	2.0 時間		

この施策の アピール ポイント	東備地域唯一の定時制高等学校である片上高等学校の運営に係る事業である。
-----------------------	-------------------------------------

この施策の 平成29年度の 施政方針	<p>備前市立片上高等学校は、東備地域唯一の定時制高校であり、従来の勤労青年のための学校という役割に加え、不登校経験者等の進学先という新たな役割を担っています。</p> <p>魅力ある学校づくりのために、コンピュータ、図書、教材備品等の整備を推進します。</p> <p>また、きめ細やかな指導を行い、個に応じた学習を進めることができるよう、非常勤講師を配置します。個々の生徒に対する教育相談や生活指導をより充実させるとともに、進路指導も充実させ、生徒の自立を支援して参ります。</p> <p>経済的負担軽減の為に、部活動補助や全国大会等出場補助を行う。また、教科書無償給与の補助を行います。さらに、夜食の内容について、生徒の学習意欲の向上や健康管理を考慮し、従来のパンと牛乳の提供以外に、弁当を提供し就学助成を行います。</p>
--------------------------	--

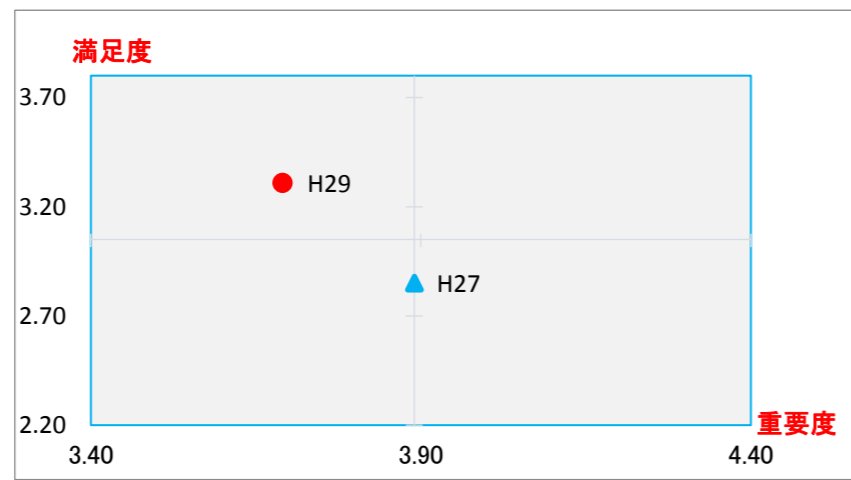
＜備前市総合計画の内容から記載する＞

① 政策の体系	基本構想（大項目）	重点施策「教育」
	基本計画（中項目）	将来を担う人材が育つまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	勤労青年だけでなく、多様なニーズや目的をもって入学する生徒に対し、社会的自立を目指す場として魅力ある教育活動を展開する。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	<p>設立当初は地場産業を支える勤労青年のための学校という役割を担っていましたが、近年は、不登校であった生徒や中途退学した生徒が、自分のベースにあった学校として、リスタートする割合が増えています。将来の自立に向け、多様な子どもたちの選択肢の一つとしての新たな役割を担っています。</p> <p>しかし、近年、入学する生徒が減少する傾向にあることから、特色ある定時制高校として教育課程の編成等を行い、生徒の新たなニーズに対応する必要があります。また、入学した生徒が卒業する割合は現状値で82%であり、途中で高校生活を断念する割合が高い傾向にあることから、生徒に高校の意義を理解させる取り組みとともに、魅力ある学校づくりが課題となっています。</p> <p>また、雇用状況の変化から、卒業時に進学や正規就職が決まっている割合が現状値で66.7%と、以前に比べ改善してきていますが、より生徒の希望に応じた進路選択が可能になるよう、進路指導をはじめとする相談体制も充実させていく必要があります。</p>	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細やかな指導</li> <li>魅力ある学校づくり</li> <li>教育環境の整備</li> <li>負担の軽減</li> </ul>	

⑤ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度		H27	H29
重要度 (%)		3.89	3.69
満足度 (%)		2.85	3.31

《グラフにおける領域の説明》



調査結果に対するコメント、市民の反応等	<p>全校生徒に対する市内の在学生の割合が低く (H27 33.3% H28 29.1% H29 19.5%) になっている。市民の関心も高いとはいえないが、東備地域唯一の夜間定時制高校として大きな役割を果たしている。</p>
---------------------	---

⑥ 施策成果指標（基本目標・基本施策・施策意図から設定）

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値		
		H27	H28	H29				
成果指標 入学試験の志願倍率	目標	倍	1.10	1.10	0.60	倍 (入学志願者÷定員)		
	実績	倍	0.35	0.55	0.28		H32	0.6
	達成率	%	31.8	50.0	45.8		H34	0.8
	ベンチマーク		—	—	—			
参考指標① 入学時の生徒が卒業する割合	目標	%	70.00	70.00	72.00	倍 (入学志願者÷定員)		
	実績	%	60.00	82.0	63.00		H32	80.0
	達成率	%	85.7	117.1	87.5		H34	80.0
	ベンチマーク		—	—	—			
参考指標② 進路決定の割合	目標	%	50.0	50.0	50.0	% (進学者+正規就職者) ÷ 卒業者)		
	実績	%	73.3	66.7	91.7		H32	55
	達成率	%	146.6	133.4	183.4		H34	60
	ベンチマーク		—	—	—			
参考指標③	目標							
	実績						H32	
	達成率	%					H34	
	ベンチマーク							

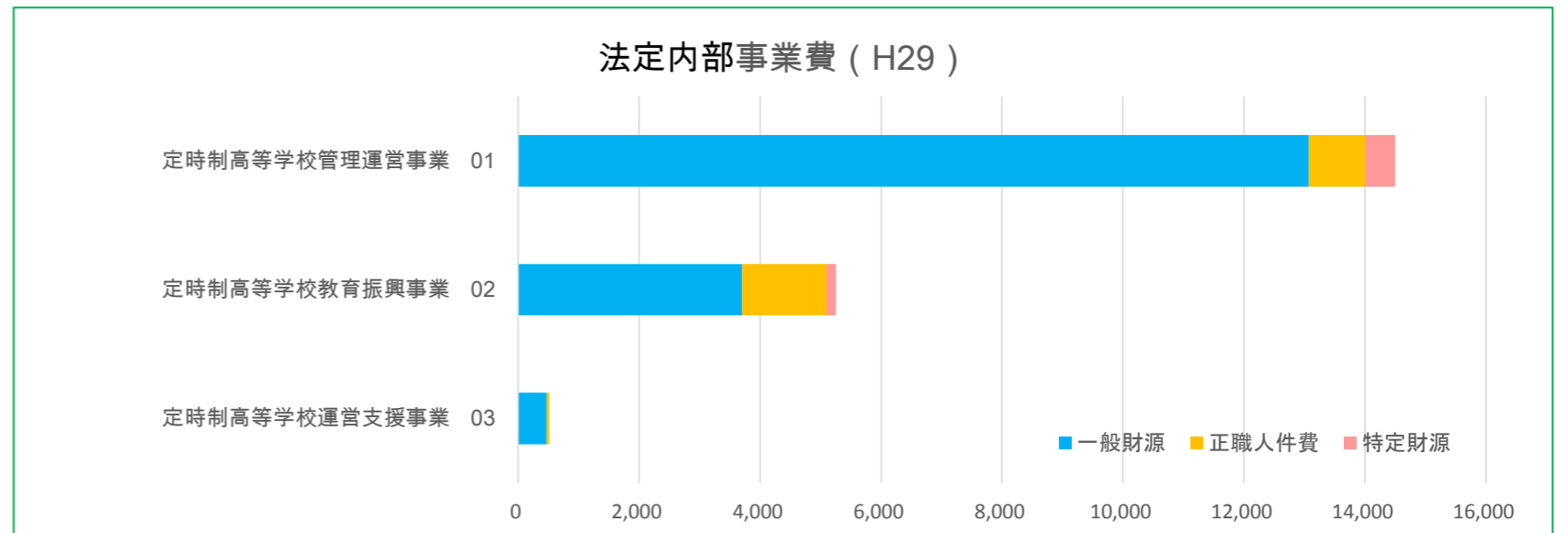
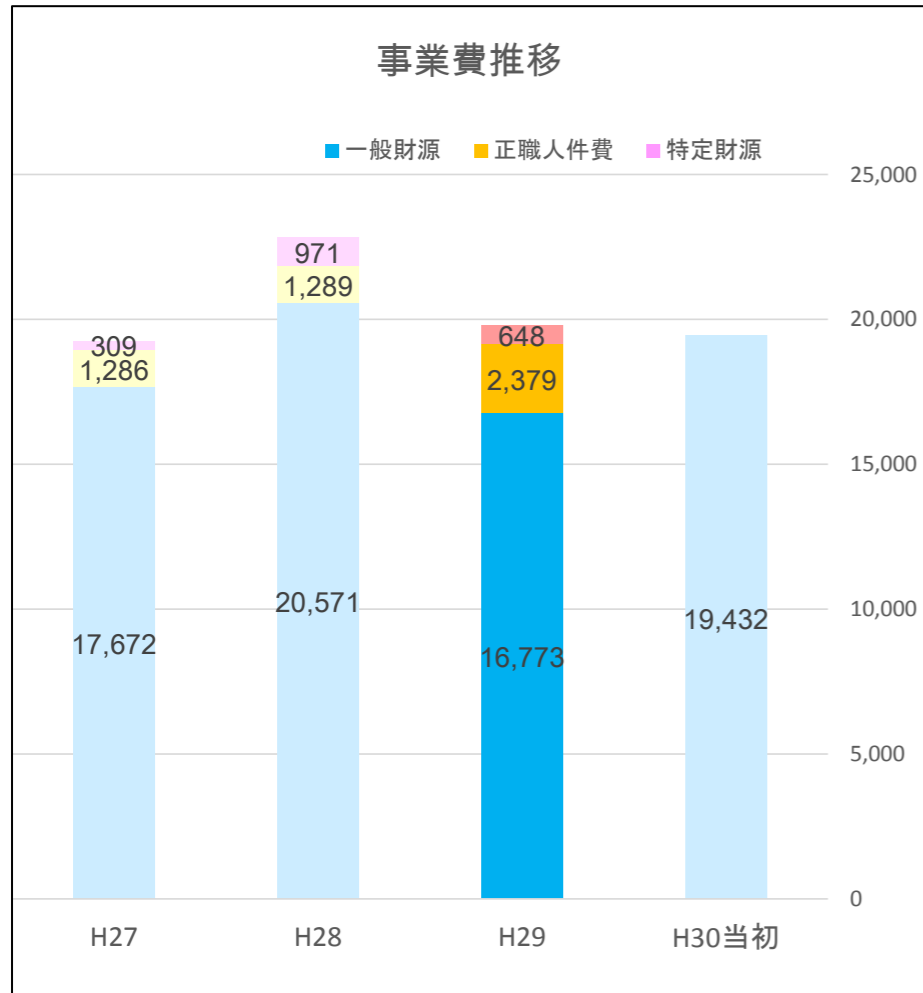
⑦ 目標達成に必要な新規事業（施策構成事務事業以外の事業）及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
教育振興課	片上高等学校魅力化検討委員会の設置	学習カリキュラム等の見直しを行うことで魅力ある高校にすることができ、生徒数の減少に歯止めをかけることができる。

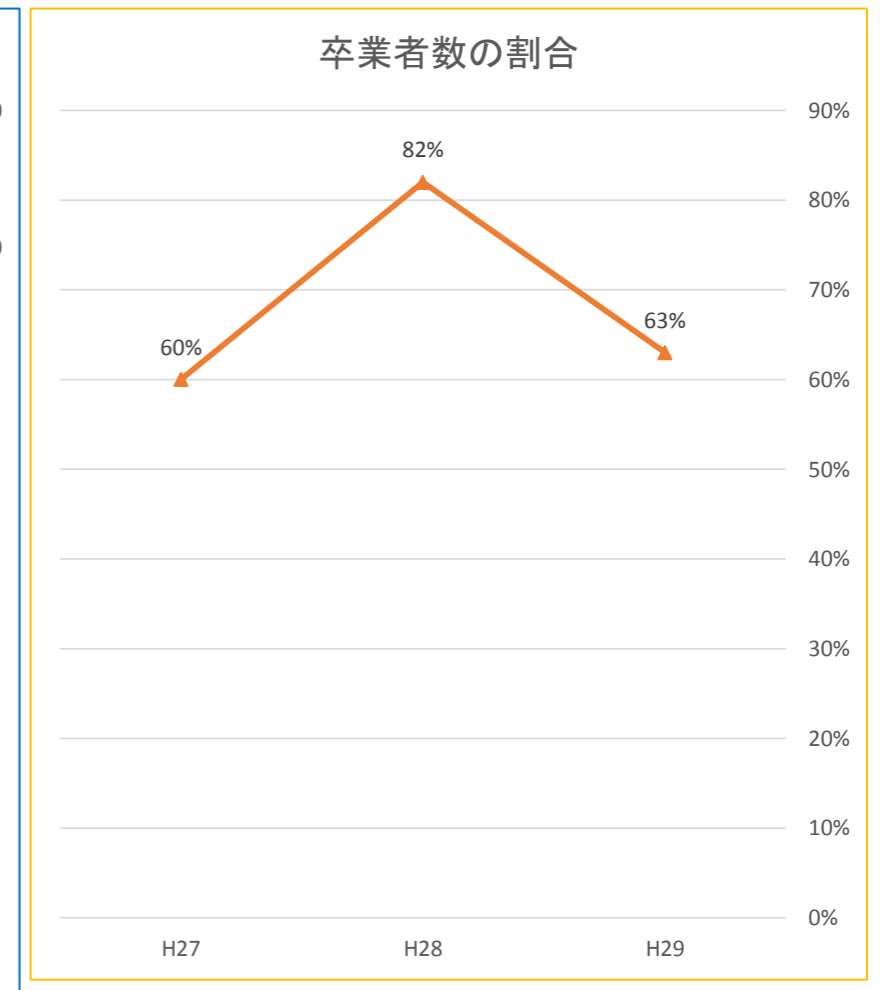
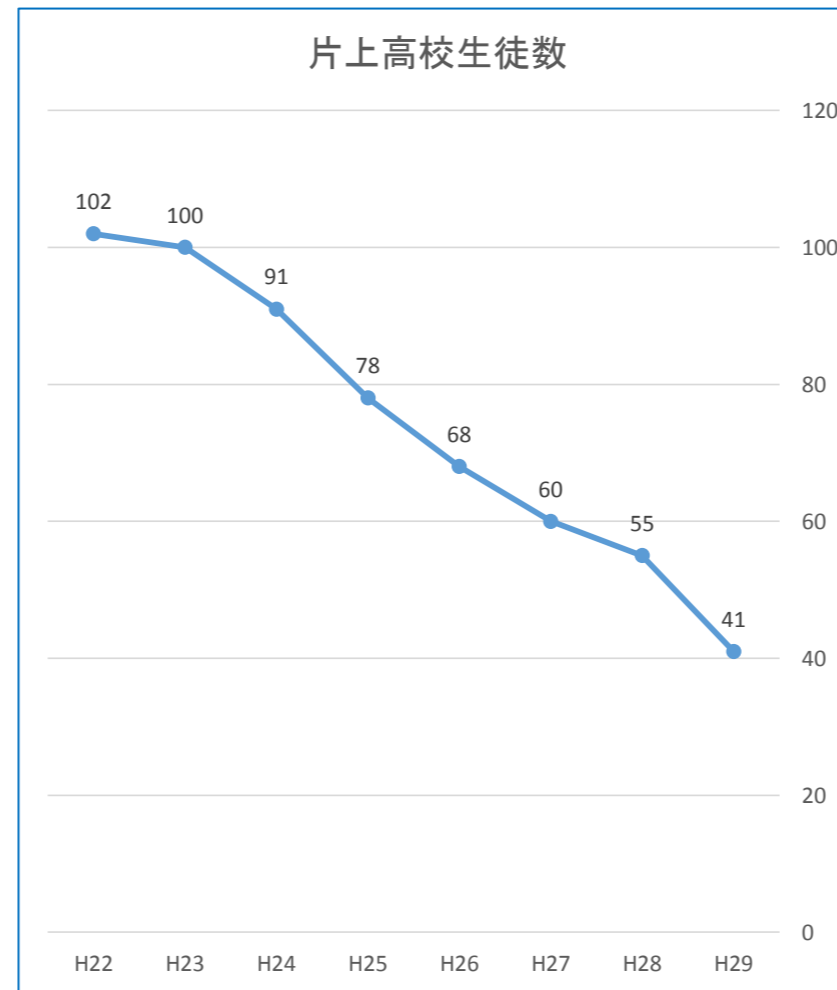
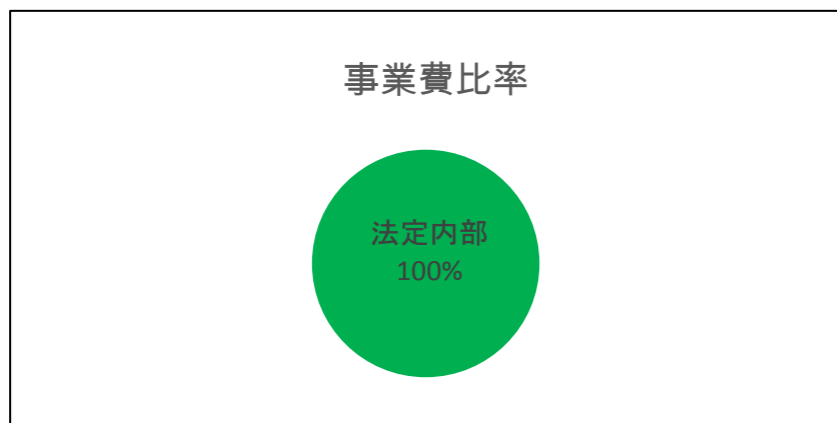
⑧ 施策の評価

項目	評価	5：非常に高い 4：高い 3：どちらともいえない 2：低い 1：非常に低い												
		判断理由（なぜ、そのランクと評価したのか）												
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか？	4	「入学試験の志願倍率」の目標値は下方修正ではあるが、現状をもとに改善に向けた修正であることから妥当性がある。「入学時の生徒が卒業する割合」は、生徒の成長を支援する学校の努力と生徒個人の意欲が反映されており、妥当性がある。「進路決定の割合」は、学校の進路指導の目的と合致し、卒業生のニーズにも合っていることから妥当である。												
2 <事業構成の適当性> 手段は最適か？	3	県立高校の施設を間借りしていることから、制約の多い中で教育活動を営まざるを得ない状況がある。また、年々、市内生徒の占める割合が低くなっている状況があり、新たに財政的援を伴う事業を実施することも困難な状況がある。												
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは？	3	片上高校を第1志望とする生徒が多くない中で、県立高校の二次募集の影響もあり、そのことが志願倍率の伸び悩みや低下に大きく影響している。学校は授業規律の確立や特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりなど努力を継続しているが、こうした学校の取り組みが受験生やその保護者に十分周知できているとは言えない。現状のままでは目標達成は厳しい状況といえる。												
進行年度 (H30年度) の取組内容 (課題解決状況)		特別な支援が必要な生徒が多いことから、特別支援教育の視点を大切に授業づくりを基盤に、学習規律の徹底や学びの環境作りが継続的な取り組みとなるよう体制づくりに取り組んでいる。非常勤講師の配置等、市費による人的支援の充実は、授業中の落ち着きや前向きに授業に取り組む生徒の増加に効果を持っている。また、学校の特色ある教育活動については、片上高校魅力化検討委員会での協議内容を参考にし直しを行うとともに、受験生や保護者への周知の在り方についても検討を行っている。												
翌年度 (H31年度) の取組目標		片上高校は、主に東備地域の不登校生徒等、特別なニーズをもつ生徒にとって、貴重な進路となっている。施設面や人的な面での支援について、大幅な改善は困難であるが、継続的な学校の指導体制の確立とともに、従来の指導内容等の見直しを行うことで、片上高等学校で目指す教育内容を明確に打ち出し、中学校や受験生・保護者にとっても分かりやすく周知することで、受験生や在校生にとって魅力ある学校づくりを目指す。												
二次評価者コメント		<table border="1"> <tr> <td>役職</td> <td>教育部長</td> </tr> <tr> <td>氏名</td> <td>川口 貴大</td> </tr> </table>			役職	教育部長	氏名	川口 貴大	<table border="1"> <tr> <td>基本施策への 貢献度</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>3 中立</td> </tr> </table>		基本施策への 貢献度			3 中立
役職	教育部長													
氏名	川口 貴大													
基本施策への 貢献度														
	3 中立													
		市立高校である片上高校は備前市の発展に寄与することが大きな役割である。備前市の課題も踏まえつつ、片上高校の性格付けをしていきたい。												

施策評価シート(裏面)



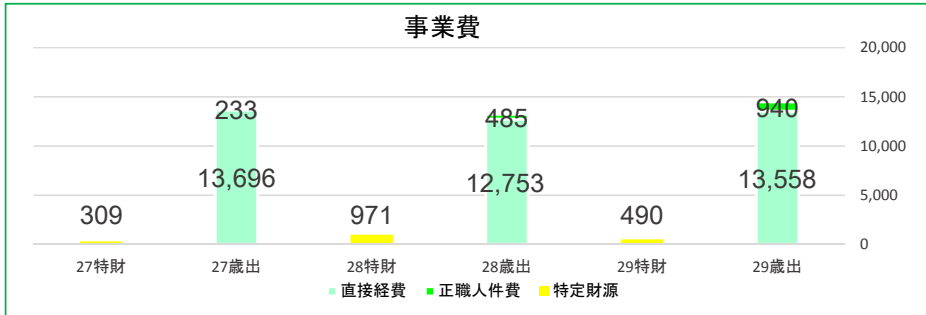
事業費 0.2 億円  
 特定財源 0.0 億円



備前市事務事業評価シート【法定事務】【内部事務】

総合計画	基本構想	01	重点施策「教育」	担当課	教育振興課
	基本計画	01	将来を担う人材が育つまち	職・氏名	係長 行正英仁
	施策	05	高等学校における柔軟な学びの場の提供	電話	0869-64-1802
事務事業名	01	定時制高等学校管理運営事業		法令名	学校教育法第1条、2条、29条、51条ほか

事業の説明	事業概要	片上高等学校の管理運営を行う。 【今年度の重点項目】《拡充》卒業記念品の充実を図る。
	主な事業費	【賃金】臨時雇賃金：4,533,478円、非常勤講師賃金：2,794,400円、用務員賃金：1,073,500円 【報償費】卒業記念品：358,902円 【補助金】夜食費補助金：890,083円 光熱水費負担金：976,384円 <b>事業費合計【13,557,670円】</b>
	特定財源	高等学校授業料 490,000円
	処理実績	生徒数 H27 60人 H28 55人 H29 41人
	前年度からの変更点・改善点	片上高等学校魅力化検討委員会を組織し、学校の今後のあり方について検討を開始した。

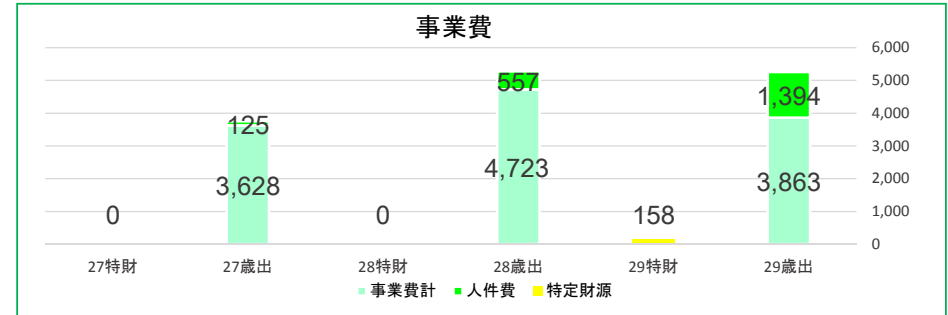


直接経費の分析	増加した経費：負担金補助及び交付金（理由：週2回分をパンから弁当に変更したため）
人件費の分析	片上高等学校魅力化検討委員会に係る事務、夜食費補助に係る事務の見直しにより、事務の負担が増加した。
今年度の改善点	引き続き、片上高等学校魅力化検討委員会を開催し、学校の今後のあり方について検討する。
次年度の方角性	引き続き、片上高等学校魅力化検討委員会を開催し、学校の今後のあり方について検討する。

備前市事務事業評価シート【法定事務】【内部事務】

総合計画	基本構想	01	重点施策「教育」	担当課	教育振興課
	基本計画	01	将来を担う人材が育つまち	職・氏名	係長 行正英仁
	施策	05	高等学校における柔軟な学びの場の提供	電話	0869-64-1802
事務事業名	02	定時制高等学校教育振興事業		法令名	学校教育法第1条、2条、29条、51条ほか

事業の説明	事業概要	片上高等学校のコンピュータ、図書、教材教具の整備、全国大会等出場補助を行う。 【今年度の重点項目】《拡充》全国大会等出場補助の充実を図る。
	主な事業費	【使用料及び賃借料】電算機器借上料：3,422,890円 【負担金補助及び交付金】全国大会等出場補助金：151,000円 <b>事業費合計【3,863,471円】</b>
	特定財源	学校教育振興基金繰入金：158,000円
	処理実績	生徒数 H27 60人 H28 55人 H29 41人
	前年度からの変更点・改善点	

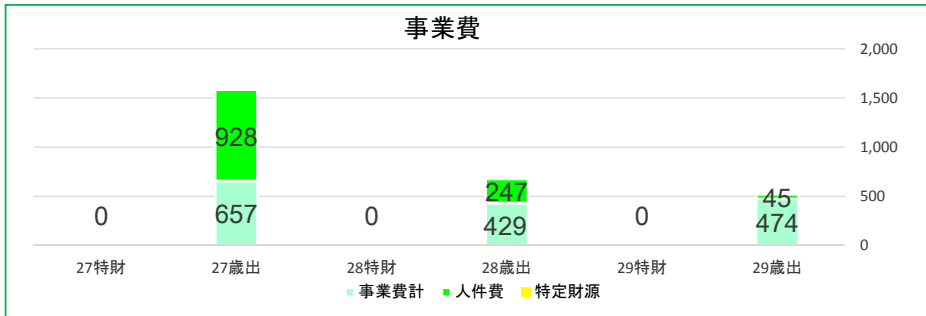


直接経費の分析	減少した経費：備品購入費（理由：教材備品の減少によるもの）
人件費の分析	教育情報機器に係る不具合対応、各種設定を実施したため
今年度の改善点	教育情報機器の老朽化に伴い、機器更新を検討する。
次年度の方角性	教育情報機器の更新を行う。

備前市事務事業評価シート【法定事務】【内部事務】

総合計画	基本構想	01	重点施策「教育」	担当課	学校教育課
	基本計画	01	将来を担う人材が育つまち	職・氏名	学事係長・岩井典昭
	施策	05	高等学校における柔軟な学びの場の提供	電話	64-1840
事務事業名	03	定時制高等学校運営支援事業	法令名	岡山県備前市立片上高等学校学則 備前市立片上高等学校教科書給与費補助金交付要綱等	

事業の説明	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【教科書給与補助事業】勤労青年の就学を支援するための教科書を給与するための事務を行う。</li> <li>・【部活動補助事業】片上高等学校生徒が参加する部活動に対する消耗品等の購入に係る補助を行う。</li> <li>・【高等学校運営事業】教員が指導の参考に活用する指導書を購入する。</li> <li>・【校内研修支援事業】校内研修に指導主事を派遣し、片上高等学校教育の資質の向上と授業改善を図る。</li> </ul>
	主な事業費	【負担金補助及び交付金】教科書給与費補助金：135,410円 【負担金補助及び交付金】高等学校体育連盟負担金：10,250円、部活動補助金20,000円 【需用費】消耗品費：222,713円 【負担金補助及び交付金】県教育研究会負担金：15,750円、定時制高校教育振興会負担金46,800円 <b>事業費合計【474,243円】</b>
	特定財源	
	処理実績	卒業生数の割合（卒業生数／入学時の生徒数×100）H27 60% H28 82% H29 63%
	前年度からの変更点・改善点	・なし



直接経費の分析	減少した経費：消耗品費（理由：採択替えの教科書によるもの）
人件費の分析	現行のままで今以上の効率性を追求することは困難
今年度の改善点	小・中学校と同様に指導訪問等を行い、生徒の実態や個に応じた指導方法の研究、授業改善に取り組む
次年度の方角性	学校経営や指導面で片上高等学校ならではの特色を出す等、魅力ある学校づくりをすすめる